

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成31年 3月28日

事業所名 魚津市立つくし学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		施設基準は守られているが、施設の老朽化、居室等の不足、様々な環境の制限はある。毎日の環境設定やプログラム内容の工夫などを行い、今ある環境の中でできる発達支援を常に心がけている。	・子どもたちにより質の高い発達支援を行うためには、施設整備はとても重要な課題です。関係機関への働きかけなどを行い、施設整備を目指します。
	2	職員の配置数は適切である	○		子どもの状況に応じて、職員が連携して支援を行っている。	子どもたちの安全を最優先に考え、必要な職員体制について常に見直します。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の整備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		古い建物なので子どもたちに危険な面もある。そのためマットやクッションを使用している。簡素化し、余計なものは置かないようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	・毎日の清掃、消毒を徹底している。 ・トイレが特に臭いが強いので常に換気扇をつけて対応している。	・子どもたちにより質の高い発達支援を行うためには、施設整備はとても重要な課題です。関係機関への働きかけなどを行い、施設整備を目指します。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		終礼、朝礼、クラス会議、職員会、運営Mなど情報交換できる場を設けている。	PDCAサイクルを常に意識し、毎日のミーティングやクラス会議、職員会議などを有効に活用し実施していきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者参加の行事については、終了後アンケートを実施し、プログラムの見直しに努めている。	アンケートによる保護者の皆さんからの意向確認以外にも、おしゃべりカフェや送迎時の情報交換など、職員が積極的に保護者の皆さんの意向を聞き取るように心がけます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			

適切な支援の提供	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後取り組んでいきたいと思いをします。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修情報を常に提供し、職員の自発的な研修参加を積極的に進めている。また園内研修だけでなく、法人の事業所合同で研修を行い、ライフステージを意識した幅の広い支援ができるような研修を実施している。	積極的な研修参加を今後も実施していきます。また参加した研修内容を職員全体で共有できるようにすること、参加した職員自身の研修効果をさらに高めるために、職員会議などでのミニ講座を実施します。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		クラス会議にて、アセスメント状況を共有している。	個別支援計画作成会議を開催し、その内容を記録していきます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	その時々々の状況に応じてアセスメントツールを活用しているが、園として定まったアセスメントツールを使用していない。	職員の知識や技術などにより差異が出ないようなアセスメントツールを今後使用していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			児童発達ガイドラインを職員に再度配布し、職員自身が自らの職務を振り返るためのツールとして活用していきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個別支援計画に基づく記録を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		クラスミーティング、運営ミーティング、職員会議を通じて実施している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		クラスミーティング、運営ミーティング、職員会議を通じて実施している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		必ず毎朝、朝礼を行い支援内容、プログラム内容等の確認を行っている。	
18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎夕、終礼を行い支援の振り返りや、保護者の思いの共有、プログラム内容の反省などを行っている。	終礼の内容を記録し、参加できなかった職員が内容を確認できるようにしています。	

関係機関や保護者との連携	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		サービス担当者会議の必要性を意識し、職員参加できるように時間調整を依頼している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重度心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		地域自立支援協議会児童部会の幹事であり、地域の関係機関が連携して支援できる体制を積極的に推進している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重度心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えている	○		主治医との連携を行うために、受診同行を行い、主治医と直接的に連携を行う機会を設けている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		綿密な情報交換を行い、子どもや保護者が不安なく移行できる状況を積極的に整えている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の同意を得て文書による情報共有はもちろん、学校等へ出向いて行って環境を確認したうえでの情報共有を行ったり、同じ場面を見ての情報交換を行うため、先生方に来園していただいている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		富山県児童発達支援センター連絡協議会や全国児童発達支援事業連絡協議会に加入している。	富山県児童発達支援センター協議会の会長園として、研修企画実施を行うことにより、職員の更なる質の向上を行っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		年4回、近くの保育園との交流保育を実施している。	一緒に活動しやすい内容を、両園の職員同士で企画することにより、活動内容をさらに充実させます。

保護者への説明責任等	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		新川地域自立支援協議会児童部会 幹事である。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎日の連絡帳、送迎時の情報交換は重要であると考えている。	いつでも、気軽に相談できる体制を整えるため、保護者の皆さんとの積極的なコミュニケーションに努めます。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・ペアレントトレーニングプログラムは実施していないが、おしゃべりカフェなどでのいろいろな専門職の勉強会などを実施している。	
	32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		入園説明会、契約時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者の方の面談しやすい日時を調整したり、ご両親の参加しやすい日の調整をしたりして、書面だけでなく、面談による内容の確認を行い、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談を適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者の方の変化を感じた場合は、保護者の方の負担にならず、思いを共有できるようにする。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		すぎなの会の活動に積極的に支援を行っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		園だよりは子どもたちの活動の様子をご紹介するとともに、つくし学園の支援内容についても理解していただけるような内容になるように作成している	法人の広報委員会等に参加し、より魅力的な広報誌づくりを意識していきます。
	38	個人情報の取り扱いに十分注意している	○			
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		英語による連絡帳のやり取りを行っている。		

非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		運動会、クリスマス会などの行事に地域の方や障害者施設の方々を招待している。	地域で開催される行事にも積極的に参加していき、地域住民の方への理解に努めていきます。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	送迎時、火災時、衛生管理マニュアルはある。	マニュアルとして整っていないものがあるため、今後整備していきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月2回、避難訓練を行っている。また、不審者対応訓練、送迎用バスの非常訓練などを行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		服薬がある場合は、その内容を「与薬願い」により記載していただき、確実な与薬に努めている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーのある児は毎年1回、医師によるアレルギー対応調査票を提出して持っている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		口頭による報告は行っていますが、記録による報告を行っていませんので、今後実施していきたいと思います。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		県が主催する虐待防止研修会への参加、大学教授による研修など実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		今後取り組んでいきたいと思えます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。